

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年9月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2278100223
法人名	株式会社 オハナ
事業所名	三ヶ日グループホーム
所在地 (電話番号)	浜松市北区三ヶ日町都筑2922-2 (電話) 053-526-2922

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成21年6月25日

【情報提供票より】(21年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	15.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 150,000 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,600 円			

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	26 名	男性	7 名	女性	19 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	5 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	62 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はまなこ病院、近藤歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設当初から運営理念「一人一人の人生が輝くように!」の考え方の中に地域社会とのつながりを大切にという基本姿勢を明記し、地域住民との双方向の交流を実践している。また、利用者や家族と一緒に一泊旅行をしたり、定期的に外食に行くなど気晴らしや楽しみ事の取り組みも積極的に行っている。毎月ホーム便りを発行して家族にホームでの暮らしぶりを伝えたり、家族の交流する機会として年1回家族会を開催している。緑の多い自然環境の中で、利用者は自由に庭に出て外気浴をしたり、ベンチに座っておしゃべりしたり、ホーム敷地内の畑で土に触れたりしており、職員は日々のその人らしい暮らしを支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は、管理者が職員会議で職員に報告している。運営推進会議は3か月に1回開催し継続しているが、介護計画は改善に向けての取り組みに結びつけることはできなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議で管理者が意義を説明し、全職員が各人で記入、ユニットリーダーや管理者がホームとしての自己評価にまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	前回評価後に運営推進会議を開催し、今年の5月には第5回目の会議を行った。ホームからは行事予定や日頃の暮し振りを報告し、自治会参加者からは地域の行事予定を伺っている。参加者からは今回の評価結果を教えて欲しい、地域の集会などで介護相談を行ったらどうかなど貴重な意見や助言が出され、サービス向上に向けた取り組みの場となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が訪問した時に声掛けしたり、意見箱(理事長直通便)を置き、家族が意見や苦情を出しやすいうように工夫している。意見箱に寄せられた意見等は、理事長からホームに伝えられ改善が図られている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	幼稚園や小学校との双方向の訪問、高校の福祉実習の受け入れ、地域のお祭りやホームの納涼祭などでの地域住民との交流など、地域との交流・連携は活発に行われている。自治会の敬老の集いに利用者が参加したり、ホームのごみの出し方の助言を受けたり、地域の方々からの温かい支援がある。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人一人の人生が輝くように！」を理念とし、更にその考え方を具体的に明記しているが、その中で地域社会とのつながりを大切にするを示し、開設当初から地域密着型サービスとしての役割を目指した理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、日頃の実践や職員会議の中で理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、夏祭りや敬老会など地域の行事に参加している。ホームの納涼祭には地域住民を招待して盆踊りやゲームを一緒に行ったり、高校生の福祉実習を受け入れている。また、クリスマス会などのホーム行事にも、幼稚園児に参加してもらったり、小学生との交流会や草取りボランティアの受け入れを行っている。		地域住民の温かい支援と理解があり、地域交流が充実している。また、ホームも個人情報に留意しつつ事業所の機能を地域に還元し、双方向の交流ができています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で管理者が評価の意義と活用について説明し、職員は実施する意義を理解して自己評価に取り組んだ。前回の評価結果は職員会議で改善に向けての話し合いを行い、運営推進会議は継続して開催されている。介護計画については今後の課題としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政、自治会長、民生委員、介護相談員、利用者代表、相談役、管理者をメンバーとし、3か月に1回開催し継続している。参加者からは地域での介護相談の要請や、ホームのごみの出し方に対する近隣住民の助言など積極的な提案がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の主催する研修会と交流会に管理者が出席して情報収集したり、区の担当者を訪問して入居者の空き状況などの報告を行うなど、日常的な関係作りに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に声を掛け、利用者の様子を伝える他、毎月ホーム便りを発行し、金銭報告書や請求書と一緒に家族に送っている。ホーム便りにはたくさんの写真を掲載してホームで行った行事の様子や日々の暮らしぶりを伝え、利用者一人ひとりに対するコメントを書き入れている。また、新しい職員の顔写真も掲載し、紹介している。		個人情報に配慮しつつ毎月ホーム便りを発行し、なかなか訪問できない家族にとって利用者の暮らしぶりを知る良い機会になっている。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に声掛けしたり、意見箱(理事長直通便)を設置して家族が意見や苦情を出しやすいように工夫している。意見箱に入れられた意見等は、理事長からホームに伝えられ改善が図られている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年法人内の異動で管理者が交代し、今年もまた管理者の異動が決まり、交代の準備中であった。職員の異動や離職はホーム便りで報告したり、直接挨拶するなどして家族や利用者との信頼関係の構築に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では、職員の勉強会を職員会議で行っている。また、今年度は実践者研修に2名の参加予定がある。しかし体制的な問題もあり、その他には法人内外の研修への参加はあまり行われていない。	○	年間の研修計画を立てるなど、職員の研修参加機会の確保のための検討が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が区内の同業者の意見交換会に参加している。また、法人内のグループホームの職員交流会があり、情報交換を行っている。	○	職員が、地域のグループホームと交流する機会を作り、勉強会や相互訪問等を通じてサービスの質の向上に取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望があった場合は、本人・家族にホームを見学していただき、その後、自宅に訪問して本人・家族と十分な話し合いの時間を持つようにしている。一週間程度の体験利用も可能であり、馴染みながらの利用開始に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「何をするにも一緒に」を念頭に入れ、共に行うことで利用者から学ぶことも多い。洗濯や掃除など、役割を持っていただき、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前の聞き取り調査や、利用後は日々の会話や行動の中から、希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者1～2名を各職員が担当し、利用者の日々の様子、家族からの要望等を考慮し、アイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の更新は年1回実施している。状態の変化が生じた場合は家族と話し合い、その都度対応を決めているが、介護計画はその都度更新していない。	○	見直しの過程が見えるように、ユニット会議等で出された意見を収集し、記録に残されたい。また、介護計画が介護の拠りどころとなるように、実情に応じた介護計画の作成をされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診、理美容院への同行や一泊旅行、外食ツアー、里帰り等、普段行けない場所への外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医への定期受診に月1回同行している。病状によっては他の病院への受診介助も行い、情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応に関する指針」を示し、職員間で共有すると共に、利用前の段階で本人・家族に説明している。重度化した場合は、医師から本人・家族に病状を伝え、その後の対応を話し合って決めている。		今後も折に触れ、終末期のあり方について利用者・家族と話し合い、不安軽減に努められたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームの様子や行事等の写真をホーム内に掲載したり、ホームだよりに取り込む場合は、利用者・家族の承諾書をいただく等、個人情報の取り扱いには十分な配慮を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にし、食事は時間がかかってもゆったりとした支援ができています。一人で庭に出て外気浴をしたり、居室での休息、テレビ観賞等、利用者の意思を尊重し、個々の希望に沿った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同法人の献立表を参考にし、毎日の朝食、昼食・夕食は週に2～3回、利用者の要望を取り入れた手作りである。職員も同じテーブルを囲み、同じ食事を楽しみながら食事支援を行っている。利用者は、台拭きや食器洗い等できることを職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、入浴の時間帯を午後に決めているが、入浴回数や時間帯は一人ひとりの希望に沿って支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事の好きな方、生花が得意な方等、一人ひとりの生活歴や能力を活かした役割りを支援している。日常生活における家事等の作業は、利用者に声を掛け、極力一緒に行くことで新たな発見が生まれ、喜びを共にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い出しや、飼い犬の散歩、玄関を出て敷地内のベンチに腰掛け外の空気を味わっている利用者等、様々な外出支援を行っている。また、外食ツアーとして月に1回は車で出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠しない。一人で自由に外へ出ていく利用者の後にそと職員が付き添うなど、職員同士の連携が伺える。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対する危機感を認識し、年2回の避難訓練を行っているが、夜間災害時の対応が課題となっている。管理者は、近隣住民に災害時の協力を口頭で依頼している。	○	様々な場面を想定し、具体的に何が困るのか、何が必要かを職員間で話し合い、運営推進会議等で、意見をいただいたり、地域住民と災害マニュアル等を作成するなど、相互協力関係への構築につなげられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事を確保するため、同法人の献立表を参考にしている。食事・水分摂取量を記録し、一日を通して把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の中に、生け花を教えていた方がおり、玄関には季節の花が生けられ、訪問者の目を引く。玄関先や居間から廊下にかけては、畳敷きのベンチが設置されるなど、その場にふさわしい雰囲気づくりと、利用者の居場所に工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド及びエアコン以外は、使い慣れた家具や家族写真等、思い出の物品を持ち込んでいる。ホームでの手作り作品や写真等も飾られ、居心地の良い居室づくりを支援している。		